

# 英文學評論

## 第 IV 輯

- 三つの演劇用語について……………山本修二
- 現代におけるミルトン再評価……………宮西光雄
- シェリ—『世俗の凱旋』—……………森清
- 理想の批評家—アーヴィング・バビットの場合……………角倉康夫
- E. M. フォースターにおける野性的人物……………村上至孝
- 島文次郎先生の思い出……………深瀬基寛

京都大学教養部英語教室

# 目次

三つの演劇用語について……………	山本修二……………(一)
現代におけるミルトン再評価——一九四〇年までを中心として……………	宮西光雄……………(三)
シェリ——『世俗の凱旋』……………	森清……………(五)
理想の批評家——アーヴィング・バビットの場合……………	角倉康夫……………(六七)
E・M・フォースターにおける野性的人物……………	村上至孝……………(二〇)
島文次郎先生の思い出……………	深瀬基寛……………(二三)

## 編輯後記

▲例によつて刊行の時期が多少おくれはしたが、「英文学評論」も第四輯を出す運びとなつた。刊行のおくれた理由の一つには、当英語教室の事業として企画された、ウイレーの「十七世紀の背景」の翻譯が、第四輯の編輯と並行しておこなわれたため、執筆者の方々が、二つの仕事に時間をさかねばならなかつたことがあげられるだろう。

▲昨年は小林象三教授が停年のため、御退職なさつたが、ひきつづき今年も、山本修二教授が同じ理由で当教室を去つて行かれた。山本教授の御退官を記念する特別講義は、一月二十九日におこなわれたが、最初の論文は、その最後の講義を、特にお願ひして、掲載させて頂いたものである。

▲また、山本教授と三高以来、車の両輪のような関係にある深瀬教授は、いままお御静養中であるが、われわれのお願ひに心よく応じて、すぐさま島文次郎先生の思ひ出の記を寄せてくださり、宮西教授からは、一四〇枚近くの力作を頂戴することができた。紙数の許す限り、ある方に専門のテーマについて、充分に論じつくして頂く試みも、興味深いことではないかと思われる。また、村上教授、森、角倉両助教授にも、お忙しいなかをそれぞれ興味を抱いている問題について、快心の筆を揮つて頂いた。委員として編輯の不手際をお詫びすると同時にこれら執筆者の方々に深く感謝し、第五輯を編まれる次の委員諸氏にバトンを渡したい——われわれの研究が一層深まり、この「評論」が、わが国の英文学研究にすこしでも意義ある寄与をなしうることを念じつゝ。(編輯委員)

## 英文学評論 第四輯

非売品

昭和三十二年三月二十日 印刷  
昭和三十二年三月二十五日 発行

編輯者

京都大学教養部英語教室  
代表者 村上至孝

印刷所

内外印刷株式会社  
京都市下京区西洞院通七条下ル

発行所

京都大学教養部英語教室  
京都市左京区吉田二本松町

# REVIEW OF ENGLISH LITERATURE

VOL. IV. March 1957

---

## CONTENTS

Three Dramatic Terms.....	<i>Shuji Yamamoto</i>
The Modern Revaluation of John Milton ——mainly in the period of two decades before 1940—— .....	<i>Mitsuo Miyanishi</i>
P. B. Shelley —— <i>The Triumph of Life</i> —— .....	<i>Kiyoshi Mori</i>
Irving Babbitt on an Ideal Critic .....	<i>Yasuo Kadokura</i>
Unsophisticated Young Men in E. M. Forster's Novels .....	<i>Shiko Murakami</i>
Personal Recollections of Prof. Shima .....	<i>Motohiro Fukase</i>

---

ENGLISH DEPARTMENT  
COLLEGE OF LIBERAL ARTS  
KYOTO UNIVERSITY